



『我慢強い』子はダメなの？

「親の価値観を押しつけ過ぎると危ない」と「自分と我が子のありのままを認めよう」の巻

佐渡市立河崎小学校長 濱田晴明

成年の人の性格は、「律儀で苦勞を惜しまない。」「人情深く、我慢強い。」などと言われます。『我慢強い』は、私が大切にしている、我が子にも大切にしたいと思っています。



「いつも笑顔」「親の言うことをよく聞く」「我慢強い」などの『いい子』は危ない。

先日読んだ本に、上記のことが書かれていました。『我慢強い』や『いい子』はダメなのでしょうか？

実は、『我慢強い』そのものが悪いのではなく、**我が子に無理矢理押しつけ、やり過ぎた我慢の強制をしたならば、一人で悩みをかかえこむ子どもになる**ので、そんな子育てはしないと述べてありました。また、**親の価値観を押しつけられ、「自分の気持ちを抑えている『いい子（外面だけがよい子）』」**にしてしまうと、親の抑圧に耐えきれなくなったときに爆発し、事件や問題を起こすので、これもしないとのこと。もし、積もり積もった感情を自分以外にぶつけたならば、「犯罪」という形で爆発。物にぶつけたならば、例えば、覚醒剤などの薬物使用。そして、自分にぶつけるのが、「自傷行為」「自殺」。ちなみに、刑務所への出入りを繰り返す人は、この『いい子（外面だけがよい子）』だった人が多いとのこと。



実は、「濱田さんといると苦しい。」と、私が若いとき、周囲の何人かから言われたことがあります。体育会系の恩師や先輩たちの中で育った私は、「義理と人情」「師弟関係」「礼儀作法」など、多くのことを学びました。これらは大切なことで、今でも大事にしています。しかし、若いときは、それらを**周りにいる人に押しつけていた**ことがありました。それがさらに悪いことに、私自身の自覚がなく、**口で言っていなかったのですが、表情や態度で表していた**ようです。教えてもらわなかったら、私はどうなっていたことでしょう。

その時の行動を反省し、今は、押しつけはしないようにし、さらに、それぞれの人の多様な価値観を認めるようしていますが・・・。我が子にも、そのようにしているつもりですが・・・。まだまだです。

ところで、人はみな弱い生き物です。だからこそ、人に頼ることも大切なのです。幼少期に、**人に素直になる方法や甘え方、自然な接し方を学べる**ことが大事です。

例えば、子どもが嘘をついたとき、一番やってはいけないのは事実を指摘し、「嘘についてはいけない。」と叱ることです。そのように叱るだけだと、子どもは、見かけだけの謝り方を身に付け、結局、ますます巧妙に嘘をつくようになります。「どうしてうそをついたのだろう？」という視点を持って対処することが大切です。「お母さんが普段言っていることで『嫌だな。』と思っていることを教えてくれない？」「我慢していることはない？」など、子どもと一緒に嘘の原因を探ることが重要です。そして、**親が変わることが第一歩**なのです。子どもが**素直になり、本当の気持ちを打ち明けたら、それを称えることが大切**なのです。叱るだけでは、**親に心を開かなくなり**ます。



書かれた内容が少し暗くなりましたが、我々大人・親がすべきことは、理想的な大人・親を演じようとするのではなく、**あるがままの自然な姿を子どもたちに見せていく**ことです。そうすれば、**子どもも自然にありのままにいられます**。子育てでかっこつけたり、善人を目指したりする必要はないのです。我が子を受け止める前に、**大人・親自身が、ありのままの自分を受け入れることが先**です。**大人・親がありのままの自分自身を受け入れることにより、子どもに対しての受け止め方が自然と変わり、我が子に価値観を無理矢理押しつけることは無くなっていきます**。(これもあくまでも私の考えなので**子育ての参考までに!**)

皆様に幸多き一年でありますことを心よりお祈り申し上げます。

【参考文献】「反省させると犯罪者になります」 岡本茂樹(新潮新書)
「いい子に育てると犯罪者になります」 岡本茂樹(新潮新書)